

FY2022 Presentation

1. Oral

「配位ケモジェネティクスによるグルタミン酸受容体の細胞種選択的な活性制御」、小島 憲人、妹尾 暁暢、掛川 渉、柚崎 通介、浜地 格、堂浦 智裕、清中 茂樹、日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会、富山国際会議場、2022 年 5 月 30 日－6 月 1 日

2. Poster

「部位選択的な AMPAR の活性制御を指向した新たな光制御システムの開発」、曾我 恭平、古田 寿昭、清中 茂樹、日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会、富山国際会議場、2022 年 5 月 30 日－6 月 1 日

3. Poster

「受容体の構造変化に着目した新規ケモジェネティック活性阻害法の開発」、三浦 裕太、小島 憲人、浜地 格、清中 茂樹、日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会、富山国際会議場、2022 年 5 月 30 日－6 月 1 日

4. Poster

「立体障害に基づくドーパミン受容体のケモジェネティクス制御」、柏 俊太郎、堂浦 智裕、清中 茂樹、日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会、富山国際会議場、2022 年 5 月 30 日－6 月 1 日

5. Poster

「結合速度論に着目したアデノシン A2A 受容体のケモジェネティクス制御」、松岡 佑真、杓野 拓光、堂浦 智裕、清中 茂樹、日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会、富山国際会議場、2022 年 5 月 30 日－6 月 1 日

6. Poster

「細胞内および細胞外 AMPA 型グルタミン酸受容体の同時可視化と動態解析」、杉原 佑太郎、小島 憲人、浜地 格、清中 茂樹、日本ケミカルバイオロジー学会 第 16 回年会、富山国際会議場、2022 年 5 月 30 日－6 月 1 日

7. Poster

「アデノシン A2A 受容体の細胞種選択的な可逆的制御を指向したオプトケモジェネティックツールの開発」、鈴木 啓文、堂浦 智裕、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

8. Poster

「細胞膜タンパク質の精密動態解析を可能とする cpHaloTag および二段階ラベル化法の開発」、池下 潤、杉原 佑太郎、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

9. Poster

「DNA 修復機構における核内相分離構造体を可視化可能な新規蛍光プローブの開発」、渡邊 愛梨、深田 梨沙子、田代 有輝、金岡 英徳、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

10. **Poster**
「構造情報に基づくアデノシン A2A 受容体の化学遺伝学的活性化」、牧野 碧、堂浦 智裕、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
11. **Poster**
「シナプスレベルでの光制御を目指した AMPA 型グルタミン酸受容体 covalent inhibitor の開発」、柴田 晃大、曾我 恭平、浜地 格、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
12. **Poster**
「様々な配位子構造を持つ Pd 錯体を用いた mGlu1 の直交的活性制御法の探索」、倉掛 涼香、三浦 裕太、妹尾 暁暢、小島 憲人、浜地 格、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
13. **Poster**
「サブタイプ選択的拮抗薬の作用機序に着目したアデノシン A2A 受容体のケモジェネティクス制御」、松岡 佑真、堂浦 智裕、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
14. **Poster**
「リガンド指向性化学を用いた細胞内及び細胞外 AMPA 型グルタミン酸受容体の選択的可視化と動態解析」、杉原 佑太郎、小島 憲人、浜地 格、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
15. **Poster**
「配位ケモジェネティクス法の class A GPCR 選択的な活性阻害への展開」、菅原 巧人、辻川 宗男、三浦 裕太、妹尾 暁暢、浜地 格、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
16. **Poster**
「ドーパミン受容体のサブタイプ選択的活性制御を可能にするケモジェネティクス」、柏 俊太郎、堂浦 智裕、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
17. **Poster**
「AMPA 受容体のサブユニット選択的活性阻害を指向した新規ケモジェネティクス法の開発」、三浦 裕太、小島 憲人、浜地 格、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
18. **Poster**
「部位選択的な AMPA 型グルタミン酸受容体の活性制御を指向した新たな光制御システムの開発」、曾我 恭平、古田 寿昭、清中 茂樹、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日
19. **Oral**
「ヘムトランスポーターFLVCR1 の未知機能の発見」、田村 朋則、第 1 回 生命金属科学シンポジウム、東京大学農学部弥生講堂、2022 年 5 月 21 日－5 月 23 日

20. **Poster**
“Proximity protein labeling with tyrosinase”, Hao Zhu, 第1回 生命金属科学シンポジウム, Yayoi Auditorium, The University of Tokyo, May 21-23, 2022.
21. **Oral**
「生きたマウス脳内での神経伝達物質受容体の蛍光標識と受容体動態のパルスチェイス解析」、野中 洋、白岩 和樹、坂本 清志、清中 茂樹、浜地 格、第16回日本分子イメージング学会総会・学術集会、京都大学百周年時計台記念館、2022年5月26日-5月27日
22. **Oral**
「生きたマウス脳内での内在性神経伝達物質受容体の化学標識と動態解析」、野中 洋、白岩 和樹、坂本 清志、清中 茂樹、浜地 格、日本ケミカルバイオロジー学会 第16回年会、富山国際会議場、2022年5月30日-6月1日
23. **Oral**
「生きた細胞という反応容器内の蛋白質ダイナミクスを見る・操る」、中村 秀樹、第22回日本蛋白質科学会年会、つくば国際会議場、2022年6月7日-6月9日
24. **Oral**
「オルガネラ選択的脂質ラベリングによる脂質制御因子の遺伝子スクリーニング」、田村 朋則、土谷 正樹、浜地 格、第22回日本蛋白質科学会年会、つくば国際会議場、2022年6月7日-6月9日
25. **Oral**
「オルガネラ選択的 PC ラベルを基軸とした CRISPR スクリーニングによる PC 合成・輸送に関わる新規遺伝子の同定」、土谷 正樹、第64回日本脂質生化学会、昭和大学上條記念館、2022年6月23日-24日
26. **Poster**
「チロシナーゼを用いた新規の近傍タンパク質ラベル化法」、松田 侑奈、朱 浩、Jae Hoon Eric Oh、中村 秀樹、辻川 宗男、田村 朋則、浜地 格、生体機能関連化学部会若手の会第33回サマースクール、神戸セミナーハウス、2022年7月13日-7月14日
27. **Poster**
「Lys/Tyr 標的型反応基の構造活性相関研究と不可逆阻害剤への応用」、河野 正晴、田村 朋則、浜地 格、生体機能関連化学部会若手の会第33回サマースクール、神戸セミナーハウス、2022年7月13日-7月14日
28. **Poster**
「FixEL: PFA 組織固定化学から着想した生体内リガンド動態可視化法」、美野 丈晴、野中 洋、坂本 清志、Jae Hoon Oh、對馬 暁洋、浜地 格、生体機能関連化学部会若手の会第33回サマースクール、神戸セミナーハウス、2022年7月13日-7月14日
29. **Poster**
“Chemical labeling of endogenous glutamate receptors in the live mouse brain”, Kazuki Shiraiwa, Seiji Sakamoto, Shigeki Kiyonaka, Hiroshi Nonaka, Itaru Hamachi, the 33rd summer school, for young researchers for Division of Biofunctional Chemistry, Kobe seminar

house, July 13-14, 2022.

30. **Poster**

「界面活性剤添加によって繰り返し重合/脱重合する超分子ファイバー」、鳥越 祥吾、窪田 亮、長尾 和俊、浜地 格、生体機能関連化学部会若手の会第 33 回サマースクール、神戸セミナーハウス、2022 年 7 月 13 日－7 月 14 日

31. **Poster**

「周波数依存的な応答挙動を示すジペプチド型コアセルバート」、窪田 亮、生体機能関連化学部会若手の会第 33 回サマースクール、神戸セミナーハウス、2022 年 7 月 13 日－7 月 14 日

32. **Poster**

“Chemical labeling of endogenous AMPA-type glutamate receptors in live mouse brain”, Kazuki Shiraiwa, Seiji Sakamoto, Shigeki Kiyonaka, Hiroshi Nonaka, Itaru Hamachi, ACS Fall meeting 2022, McCormick Place Convention Center Chicago, USA, August 21-25, 2022.

33. **Poster**

「マウス脳内における小分子リガンドの動態イメージング」、美野 丈晴、新学術領域「生命金属科学」夏の合宿、ルスツリゾートホテル&コンベンション、2022 年 9 月 3 日－9 月 5 日

34. **Oral**

「ケミカルバイオロジーは生命金属科学の未来にどのように貢献するか」、田村 朋則、新学術領域「生命金属科学」夏の合宿、ルスツリゾートホテル&コンベンション、2022 年 9 月 3 日－9 月 5 日

35. **Oral**

「界面活性剤添加により伸長と収縮を繰り返す超分子 ファイバーの構築とその場観察」、鳥越 祥吾、長尾 和俊、窪田 亮、浜地 格、第 71 回高分子討論会、北海道大学札幌キャンパス、2022 年 9 月 5 日－9 月 7 日

36. **Oral**

「超分子・高分子複合ゲルの多様なネットワーク構造の 発見とその支配因子の解明」、中村 圭佑、窪田 亮、浜地 格、第 71 回高分子討論会、北海道大学札幌キャンパス、2022 年 9 月 5 日－9 月 7 日

37. **Oral**

「時間パターン依存的な刺激応答性を示すジペプチド 型コアセルバートの開発」、窪田 亮、鳥越 祥吾、浜地 格、第 71 回高分子討論会、北海道大学札幌キャンパス、2022 年 9 月 5 日－9 月 7 日

38. **Oral**

「金属イオン応答性タンパク質修飾プローブを用いたコンディショナルプロテオミクス」、田村 朋則、第 33 回日本微量元素学会学術集会、淡路夢舞台国際会議場、2022 年 9 月 8 日－9 月 10 日

39. **Oral**

「生きたマウス脳内での内在性受容体のケミカルラベルと受容体運命の解析」、野中 洋、

第 9 回バイオ関連化学シンポジウム若手フォーラム、名古屋大学、2022 年 9 月 8 日－9 月 9 日

40. **Poster**

「光駆動近接ラベル化法による生きたマウス脳内での神経伝達物質受容体近傍タンパク質の同定」、高遠 美貴子、坂本 清志、野中 洋、田村 朋則、浜地 格、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

41. **Poster**

「オルガネラ選択的ホスファチジルイノシトールラベリング」、木村 天海、田村 朋則、浜地 格、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

42. **Poster**

「in vivo 応用を指向した新規 NASA 反応基の構造活性相関」、村川 駿介、河野 正晴、田村 朋則、浜地 格、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

43. **Poster**

「新規求電子性反応基を用いた薬剤耐性変異 BTK に対する不可逆阻害剤の開発」、河野 正晴、田村 朋則、村川 駿介、浜地 格、第 16 回バイオ関連化学シンポジウム、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 9 月 10 日－9 月 12 日

44. **Oral**

「分子夾雑下での生命分子の直接修飾/機能解析を実現する有機化学」、浜地 格、田村 知則、分子夾雑の生命化学 成果とりまとめシンポジウム、福岡アイランドシティフォーラム、2022 年 9 月 16 日－9 月 17 日

45. **Oral**

「コンディショナルプロテオミクスによる金属関連タンパク質のイメージングとプロファイリング」、田村 朋則、第 60 回日本生物物理学会年会、函館アリーナ・函館市民会館、2022 年 9 月 28 日－9 月 30 日

46. **Oral**

「合成生物学で生きた細胞内の動的構造体を操り、デザインし、理解する」、中村 秀樹、第 60 回日本生物物理学会年会、函館アリーナ・函館市民会館、2022 年 9 月 28 日－9 月 30 日

47. **Oral**

「蛋白質表面の化学修飾を基軸とした機能阻害」、第 436 回 CBI 学会講演会、浜地 格、オンライン、2022 年 6 月 22 日

48. **Oral**

「分子夾雑化学から生体金属への貢献?」、浜地 格、新学術領域「生命金属科学」夏の合宿、ルスツリゾートホテル&コンベンション、2022 年 9 月 3 日－9 月 5 日

49. **Oral**

“Design of multicomponent supramolecular hydrogel systems”, Itaru Hamachi, Max Planck Institute for Polymer Research seminar, online, Germany, June 7, 2022.

50. **Oral**
“Chemical Labeling/Imaging of Neurotransmitter Receptors in Live Cell and Brain”, Itaru Hamachi, 27th American Peptide Symposium, Whistler Conference Centre, Canada, June 11-16, 2022.
51. **Oral**
“Chemical labeling of neurotransmitter receptors in live mouse brain”, Itaru Hamachi, NEURO2022, Okinawa Convention Center, Japan, June 30-July 3, 2022.
52. **Poster**
「アデノ随伴ウイルスを用いた Cbln1 補充療法は Cbln1 欠損マウスの小脳失調症状を回復させる」、山崎 世和、掛川 渉、柚崎 通介、第 45 回日本神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
53. **Poster**
「新たなシナプスをつなぐ:シナプス形成分子の改変による新規シナプスコネクターの設計」、大和田 響、松田 恵子、柚崎 通介、第 45 回日本神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
54. **Poster**
「近位依存性標識 Split-TurboID 法による神経回路特異的分子の網羅的探索」、湯本 蒼也、高野 哲也、山崎 世和、田村 朋則、浜地 格、柚崎 通介、第 45 回日本神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
55. **Oral**
「AMPA 受容体に着目した自閉症スペクトラム症発症メカニズムの解明」、勝野 友貴、太田 航、山ノ上 友美、實木 亨、宮崎 智之、中島 和希、波多野 真依、佐野 亜加根、永露 毅、中野 晃太郎、柚崎 通介、鈴木 邦道、掛川 渉、松田 恵子、高橋 琢哉、第 65 回日本神経化学学会大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
56. **Poster**
「成熟後小脳において C1ql1-Bai3 シグナルは登上線維分枝のシナプス結合を制御する」、会見 昂大、柚崎 通介、第 45 回日本神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
57. **Poster**
「後根神経節および脊髄におけるセレベリンファミリーの局在」、高杉 聡、松田 恵子、三浦 絵里子、柚崎 通介、第 45 回日本神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
58. **Poster**
「分子イメージングへの応用を指向したシナプス形成分子に対する新規 VHH 抗体の取得」、横尾 尚典、中木戸 誠、松田 恵子、柚崎 通介、津本 浩平、第 45 回日本神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日
59. **Oral**
「人為的シナプスコネクトと神経再生環境場整備による後期脊髄損傷からの回復」、笹倉 寛之、鈴木 邦道、池野 正史、森岡 幸、武内 由佳、柚崎 通介、武内 恒成、第 45 回日本

神経科学大会、沖縄コンベンションセンター、2022 年 6 月 30 日－7 月 3 日

60. **Oral**
「新規ケモジェネティクス法による脳内記憶・学習回路の制御と理解」、掛川 渉、分子夾雑の生命化学 成果とりまとめシンポジウム、福岡アイランドシティフォーラム、2022 年 9 月 16 日－9 月 17 日
61. **Poster**
“Function of GluD1-Cbln1 complex in thalamocortical synapse which implements flexible behavior”, Mari Shiozaki, Ayako Wendy Ishikawa, Shintaro Otsuka, Aya Ito-Ishida, Michisuke Yuzaki, 4th Japan-UK Neuroscience Symposium 2022, Karuizawa, Japan, September 19-22, 2022.
62. **Oral**
“Ligand-directed Chemistry of Protein in Live Cells and Brain”, Itaru Hamachi, POSTECH Signature Conference 2022 (The 1st International Conference on Futuristic Medical Science & Engineering), POSCO International Center, Korea, October 11-12, 2022.
63. **Oral**
“Ligand directed chemistry for receptors labeling in live systems”, Itaru Hamachi, BASF discovery virtual symposium, online, India, November 8, 2022.
64. **Oral**
“Ligand-directed protein modification in live cell and live brain”, Itaru Hamachi, Yonsei University department symposium, online, Korea, November 10, 2022.
65. **Oral**
2022 ノーベル賞解説講演「クリック反応の開発と生体直交性有機化学への展開」、浜地 格、第 12 回 CSJ 化学フェスタ 2022、タワーホール船堀、2022 年 10 月 18 日－20 日
66. **Oral**
「分子夾雑を目指す chemical biology と超分子化学」、浜地 格、第 26 回発動分子科学セミナー、東京工業大学、2022 年 10 月 28 日
67. **Oral**
「ケミカルラベルで細胞、脳内を覗く分子技術」、浜地 格、名古屋大学生命農学研究科公開セミナー、名古屋大学東山キャンパス、2022 年 11 月 15 日
68. **Oral**
「生きたマウス脳内での受容体ケミカルラベルの新手法」、浜地 格、第 45 回日本分子生物学会年会「標識して、集めて、見る」生体分子ラベル技術の最前線、幕張メッセ、2022 年 11 月 30 日－12 月 2 日
69. **Oral**
「Think out of the box:化学生物学からの1事例」、浜地 格、第 45 回日本分子生物学

会年会「異分野融合研究による創発～展望と課題～」、幕張メッセ、2022 年 11 月 30 日
–12 月 2 日

70. Oral

“Non-equilibrium patterning of a supramolecular double-network hydrogel inspired by morphogenesis”, Ryou Kubota, The 2nd UNIST-Kyoto University Joint Symposium on Chemistry and Materials Science, Ulsan National Institute of Science and Technology, Korea, October 27-29, 2022.

71. Oral

“Conditional proteomics approaches to identify proteins related to Zn and NO”, Tomonori Tamura, Itaru Hamachi, Redox Week in Sendai 2022, Tohoku University Seiryō Campus, Sendai, Japan, October 28-November 1, 2022.

72. Poster

「コリン欠乏により誘導される細胞死の解析」、土谷 正樹、第 95 回日本生化学大会、名古屋国際会議場、2022 年 11 月 9 日–11 月 11 日

73. Oral

「オルガネラ選択的タンパク質・脂質ラベリング」、田村 朋則、土谷 正樹、浜地 格、第 95 回日本生化学大会、名古屋国際会議場、2022 年 11 月 9 日–11 月 11 日

74. Oral

「蛋白質/脂質の in situ ケミカルラベリング」、田村 朋則、第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム「つながり醸成企画 ―未来を切り拓く創薬技術―」、オンライン、2022 年 11 月 23 日–11 月 25 日

75. Oral

“Conditional Proteomics Approaches to Identify Proteins Related to Biometals and Signaling Molecules”, Tomonori Tamura, Itaru Hamachi, 10th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference, Kobe International Conference Center, Kobe, Japan, November 28-December 3, 2022.

76. Oral

“Tyrosinase-Catalyzed Proximity Labeling in Living Cells and in vivo”, Hao Zhu, Jae Hoon Oh, Yuna Matsuda, Takeharu Mino, Hideki Nakamura, Muneo Tsujikawa, Hiroshi Nonaka, Tomonori Tamura, Itaru Hamachi, 10th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference, Kobe International Conference Center, Kobe, Japan, November 28-December 3, 2022.

77. Oral

「生物からインスパイアされた多成分・非平衡系超分子ソフトマテリアルの開発」、窪田 亮、第 2 回発動分子科学サロン「発動分子と分子集合体」、東京工業大学すずかけ台キャンパス、2022 年 12 月 20 日

78. **Oral**
「超分子の新時代を目指した多成分・非平衡散逸系ゲルシステム」、窪田 亮、第 184 回東海高分子研究会講演会、名古屋工業大学、2022 年 12 月 17 日
79. **Oral**
「超分子・高分子複合ゲルにおける光駆動非平衡パターンニング」、生田 優力、中村 圭佑、窪田 亮、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
80. **Oral**
「ジペプチド型コアセルバートの形成・動的過程のリアルタイム共焦点観察」、窪田 亮、Yuchong Liu、廣井 太郎、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
81. **Oral**
「界面活性剤ミセルにより繰り返し伸び縮みする超分子ファイバー」、鳥越 祥吾、窪田 亮、長尾 和俊、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
82. **Oral**
「チロシナーゼを用いた生細胞での近傍タンパク質ラベル化法の開発」、松田 侑奈、朱 浩、Jae Hoon Oh、中村 秀樹、辻川 宗男、田村 朋則、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
83. **Oral**
「第二世代 NASA 反応基の開発と不可逆阻害剤への応用」、河野 正晴、村川 駿介、田村 朋則、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
84. **Oral**
「ケミカルセンサーを組み込んだ FixEL 法の新展開」、美野 丈晴、野中 洋、坂本 清志、石川 守、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
85. **Oral**
「生きたマウス脳内で機能する新規受容体ラベル化剤の開発と多重標識への展開」、野中 洋、王 萌初、武士 拓磨、白岩 和樹、坂本 清志、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
86. **Oral**
「リガンド指向性 PhoxID 法による生きたマウス脳内での神経伝達物質受容体近傍ラベリング」、田村 朋則、高遠 美貴子、坂本 清志、野中 洋、浜地 格、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日－3 月 25 日
87. **Oral**
「リガンド指向性アシルイミダゾール化学による生きたマウス脳内での内在性神経伝達物質受容体の化学標識」、野中 洋、日本生理学会第 100 回記念大会「日本生理学会 第 100 回記念大会」、国立京都国際会館、2023 年 3 月 14 日－3 月 16 日

88. **Oral**
「光駆動近接ラベル化法による生きたマウス脳内での神経伝達物質受容体インタラクトーム解析」、高遠 美貴子、日本生理学会第 100 回記念大会「日本生理学会 第 100 回記念大会」、国立京都国際会館、2023 年 3 月 14 日－3 月 16 日
89. **Oral**
「生きた細胞内の凝縮体を操作する合成生物学技術の開発」、中村 秀樹、研究会 凝縮系の理論化学、沖縄県市町村自治会館、2023 年 3 月 9 日－3 月 10 日
90. **Oral**
「生きた細胞内のマイクロ構造体を光(など)で操る」、中村 秀樹、第 14 回「光塾」、大阪大学吹田キャンパス、2023 年 1 月 18 日－1 月 19 日
91. **Oral**
「創発と融合 Think out of the box:化学と生物学の狭間で」、浜地 格、JST 創発自発的な融合の場 第 1 回分子生命反応創発討論会、金沢大学角間キャンパス、2023 年 2 月 21 日－2 月 22 日
92. **Oral**
“Ligand-directed Chemical Labeling of Neurotransmitter Receptors in Cell and Live Brain”, Itaru Hamachi, 4th Asian Conference on Chemosensors & Imaging Probes, Korea, online, February 6-7, 2023.
93. **Oral**
“Chemical labeling/imaging of neurotransmitter receptors in the brain”, Itaru Hamachi, Universität Hamburg-Kyoto University Joint Symposium “Cellular mechanisms of learning and memory”, iCeMS, Kyoto University, Japan, March 13-14, 2023.
94. **Poster**
“Phototriggered non-equilibrium spatial patterning of peptide nanofibers in a self-sorted supramolecular double-network hydrogel”, Ryo Kubota, 2023 Peptide Materials Conference GRC “Fundamentals, Design Strategies and Applications”, Grand Galvez, USA, January 15-20, 2023.
95. **Oral**
「分割蛍光タンパク質プローブによる DNA 損傷応答イメージング」、金岡 英徳、渡邊 愛梨、田代 有輝、深田 梨沙子、清中 茂樹、第 53 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会、オンライン、2022 年 11 月 5 日－11 月 6 日
96. **Oral**
「代謝型グルタミン酸受容体の in vivo 制御のためのケモジェネティックアプローチ」、堂浦 智裕、長谷川 寛太、柏 俊太郎、松葉 佑弥、清中 茂樹、第 53 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会、オンライン、2022 年 11 月 5 日－11 月 6 日
97. **Oral**
「グルタミン酸受容体の構造変化に着目したケモジェネティクス法の開発」、清中 茂樹、第 95 回 日本生化学会大会、名古屋国際会議場、2022 年 11 月 9 日－11 月 11 日

98. **Oral**
「細胞選択的な活性制御を実現する新たな GPCR ケモジェネティクス法」、清中 茂樹、第 96 回日本薬理学会年会、パシフィコ横浜、2022 年 11 月 30 日–12 月 3 日
99. **Oral**
「細胞選択的な活性制御を実現するグルタミン酸受容体ケモジェネティクス法」、清中 茂樹、日本生理学会第 100 回記念大会「日本生理学会 第 100 回記念大会」、国立京都国際会館、2023 年 3 月 14 日–16 日
100. **Oral**
「GPCR ケモジェネティクスによる細胞操作の新展開」、清中 茂樹、レドックス R&D 戦略委員会第3回春のシンポジウム「ワンヘルスの実現を目指したレドックス生命科学の温故創新」、九州大学馬出病院地区、2023 年 3 月 17 日
101. **Oral**
「拮抗剤のサブタイプ選択性に着目したアデノシン A2A 受容体のケモジェネティクス制御」、松岡 佑真、堂浦 智裕、清中 茂樹、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日–3 月 25 日
102. **Oral**
「In vivo 制御を指向した代謝型グルタミン酸受容体 mGlu1 変異体選択的なサイレントリガンドの開発」、堂浦 智裕、柏 俊太郎、長谷川 寛太、松葉 佑弥、清中 茂樹、日本化学会 第 103 春季年会(2023)、東京理科大学野田キャンパス、2023 年 3 月 22 日–3 月 25 日
103. **Oral**
「細胞種選択的な受容体の人為制御を実現するケモジェネティクス法の開発」、清中 茂樹、日本薬学会第 143 年会、北海道大学、2023 年 3 月 25 日–3 月 28 日
104. **Oral**
“In vivo nanoscopic landscape of neurexin ligands underlying anterograde synapse specification”, Kazuya Nozawa, Taku Sogabe, Ayumi Hayashi, Junko Motohashi, Eriko Miura, Itaru Arai, Michisuke Yuzaki, Development and Plasticity of the Brain, Hotel & Resorts ISE-SHIMA, Japan, October 21-23, 2022.
105. **Oral**
“Deciphering astrocyte-neuron protein networks in vivo using tripartite synaptomics”, Tetsuya Takano, The 95th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society, Nagoya Congress Center, Japan, November 9-11, 2023.
106. **Oral**
「近依存性標識法が読解するシナプスの空間的分子ファイリング」、高野 哲也、第 45 回日本分子生物学会年会、幕張メッセ、2022 年 11 月 30 日–12 月 2 日
107. **Oral**
「成体脳におけるイオンチャネル型グルタミン酸受容体の新しい活動様式」、掛川 渉、第 5 回 和光ー精神神経懇話会、日本 IBM 保養施設 天城ホームステッド、2022 年 12 月 10

日-12月11日

108. Oral

「近依存性ビオチン標識(BioID)技術によるシナプスプロテオーム」、高野 哲也、生理研研究会「次世代シナプス生理学による脳神経機能の理解」、生理学研究所、岡崎市、2022年11月8日-11月9日

109. Oral

「生体内近位依存性ビオチン標識(iBioID)法による空間的シナプトミクス」、高野 哲也、宮崎大学大学院特別セミナー、オンライン、2023年1月27日

110. Oral

”「近依存性ビオチン標識法を応用した空間的シナプトミクス」、高野 哲也、2022 年度 生理学研究so研究会「ナノ・メゾスケールから捉えるシナプス制御機構の新展開」、オンライン、2023年2月3日

111. Poster

“Building principles of synapse nanoarchitecture revealed by expansion microscopy techniques”, Kazuya Nozawa, Taku Sogabe, Ayumi Hayashi, Junko Motohashi, Eriko Miura, Itaru Arai, Michisuke Yuzaki, MPFI’s Biennial Neural Circuits Research Conference 2023, Palm Beach County Convention Center, USA, March 6-8, 2023.

112. Poster

“Labeling primary visual cortex (V1)-projecting neurons in the retrosplenial cortex and anterior cingulate cortex”, Mitsuhiro Oishi, Ayako Wendy Ishikawa, Michisuke Yuzaki, Nervous System Assembly, Conference Center, OIST, March 6-9, 2023.

113. Poster

「3 色かつ 3 次元での超解像観察により明らかになったシナプスを橋渡しする Nr1n-Cbln1-GluD2 のナノ構造」、曾我部 拓、野澤 和弥、林 亜由美、柚崎 通介、日本生理学会第 100 回記念大会「神経・シナプス機能の理解に向けた革新的ニューロ分子技術」、国立京都国際会館、2023 年 3 月 14 日-16 日”

114. Poster

「GluD2 ラーチャー変異体のチャネル活性の種間差とその構造基盤」、伊藤 政之、掛川 渉、柚崎 通介、日本生理学会第 100 回記念大会「神経・シナプス機能の理解に向けた革新的ニューロ分子技術」、国立京都国際会館、2023 年 3 月 14 日-16 日

115. Oral

「Expansion microscopy によって明らかになる生体内シナプスのナノスケール分子構築」、野澤 和弥、曾我部 拓、林 亜由美、柚崎 通介、日本生理学会第 100 回記念大会「神経・シナプス機能の理解に向けた革新的ニューロ分子技術」、国立京都国際会館、2023 年 3 月 14 日-16 日